



(発行)  
 熊本市教育委員会事務局  
 学校教育部 総合支援課  
 学校サポート班  
 (文責)  
 指導主事 田中 慎一郎  
 tanaka.shinichiro@city.kumamoto.lg.jp

## 喜んでくれるはずが...

### 誕プレ動画のゆくえ



スマートフォンの中には友だちと撮影したたくさんの写真があります。それらにメッセージと曲をつけて編集し5分ほどの動画にします。この友だちの誕生日のために作られた動画を誕生日プレゼント動画、略して誕プレ動画といいます。

動画のクオリティーは高く、中には涙を誘うような感動的なものもあります。もらった友だちは、非常に嬉しい気持ちになり、ずっと保存しておきたい大切な友達からもらったプレゼントになるようです。動画作成には、時間がかかるので、そのようにしてつくられたプレゼントは、自分への想いの強さを感じるようです。現代の子どもたちにとっては、金をかけるよりも、血の通った温かみのあるプレゼントになります。

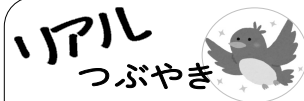
しかし、この誕プレ動画。せっかく想いを込めたのに、プレゼントをもらった相手が嫌な思いをすることもあられるようです。動画作成には、上手な子もそうでない子もいます。上手な子が作ったものは、プロ顔負けです。一つの作品のようでもありません。一種のスターのよう

になり、その人から誕プレ動画をもらうのがステータスのようになることもあります。すると次第に、なかなか全員に作ることは難しいにもかかわらず、がんばってみんなの期待に答えようと制作するようになります。

気がつけば、友だちへの想いより、作品としての質を高めるために作られた動画へと変化します。するとそれを周囲の人にも見てもらいたくなるのです。プレゼントのはずの動画が、自分の作品となるのです。

さて、プレゼントをもらっ

た人の悩み。それは、自分に誕プレ動画をくれた人がその人のSNSでそれを他の人に公開してしまっている悩みです。誕プレ動画なので、写っているのは自分の写真がほとんどです。動画を作った人のSNSは、人気があるらしく多くの人が目にします。そのうち、動画をもらった彼女に知らない人から「かわいいね付き合って！」とメッセージが頻りに届くようになったそうです。「動画のプレゼントをもらったのは嬉しいけど、自分の姿がなぜさらされるかならなければならぬのか、とても嫌な思いになりました。」彼女の言葉です。プレゼントが、相手を傷つけることにならないようにしたいですね。



秋の虫といえば、コオロギより鈴虫がしっくりいく田中です。早朝冷え込んできました。寝るときは暑くて何もかけませんが、朝になると寒くて風邪を引いてしまいそうです。そこで、用意周到な私は保険のために、足元に毛布を置くことにしました。備えあれば憂いなし。何でもいざというときの身を守る保険が必要です。ところが、先日私は風邪を引きました... 実は、用意した足元の毛布は、寝付くとき暑さのあまり蹴飛ばすようです。必要になったときは、近くにありません。子どもをネットのトラブルから守る家庭での使用ルール。いざというときの保険にするためには、それを普段から守れる身近なものにしておかななくてはなりません。無意識の中で、自分から遠ざかるルールでは、本来の目的を果たせずに終わってしまいます。ネットでひく風邪は、治りが悪いので気をつけたいですね。

相談に乗る力がありました。だから、クラスメイトは男女問わず、彼によく相談をしていました。インターネットの世界だけでなく、教室の中にも悩み相談ができる環境ができればよいですね。

### 相談に乗る力をつける



中高生を対象とした熊本市SNS悩み相談「ほっとLINE」が終了しました。2週間に延べ254件の相談への来訪がありました。その中で、相談した人の声に「小さな悩みでも相談に乗ってもらってありがたかった。」とい

うものがありました。考えてみると、悩みがあるときに気軽に家族や先生や友だちに相談できるかといえば、そうでないことの方が多い気がします。だとすれば、目の前の人と相談できるような「相談に乗る力」をそれぞれの立場で身に着けたいものです。

教室の中で、クラスメイトの心の動きに気づき、声をかける子どもの姿を見ることがあります。彼には、

リスクを知る。まずは、ここから始めなければならない。何のためにルールを作るのか。それは、子どもたちを、インターネット利用に起因する様々な問題から救うため。もちろん、怪我をして覚えていくことで成長するものもある。しかし、インターネットの特性として、一生の傷になったり、命を奪ったりしてしまうものもある。▼家庭内のルール作りは、子どもたちを監視し縛るためではなく、家庭内でインターネットとの付き合い方を、子どもと一緒に話すためにある。ルール作りを通して、子どもたちにリスクを伝えるのもと一緒に考えればよい。その活動になる。▼リスクは

### 家庭内ルールの作り方

ある。詳しくなれば、子どもの時間こそが、子どもたちを大きく分けると4つ。「加害者被害者の両面で犯罪に巻き込まれるリスク。」「個人情報流出のリスク。」「対人トラブルのリスク。」「依存や有害情報からの悪影響。」これらのリスクに応じた各家庭の実態に合わせたルールを作ればよい。大切なのは、管理ではなくルールの運用である。なぜなら、ゴールは子どもが保護者の手から離れたときに、自分ひとりで正しく『自分も人も傷つけない使い方ができるようになっている状態』である。一人暮らしをした途端に、スマホ依存になってしまい、仕事や学校に行けなくなったのでは、意味がない。